

「甲佐町住まいの復興拠点施設」が完成

「甲佐地区防災公園」で落成式を開催

11月22日（金）町が熊本地震からの創造的復興の拠点として役場東側に整備した「甲佐町住まいの復興拠点施設」がすべて完成し、落成式

が執り行われました。同施設は、災害公営住宅と子育て支援住宅、都市防災公園を一体的に整備しています。

■甲佐町の「創造的復興」のシンボルが完成

11月22日（金）豊内の「甲佐町住まいの復興拠点施設」がすべて完成し、落成式が執り行われました。

同施設は、町が役場東側の隣接地12,800平方メートルに熊本地震からの復旧復興における「創造的復興」の拠点として整備に着手。復旧復興だけでなく移住定住や多世代交流につなげるため、甲佐地区災害公営住宅（30戸）、甲佐町子育て支援住宅「ヴェルデ甲佐」（20戸）、都市防災公園「甲佐地区防災公園」を一体的な空間として整備しました。

災害公営住宅は平成31年4月から、子育て支援住宅は9月から入居が開始。災害用井戸や耐震性貯水槽などを備える都市防災公園が11月に完成し、復興する甲佐町のシンボルが出来上がりました。

落成式には、蒲島郁夫知事や災害公



甲佐町住まいの復興拠点施設 全体 図



「甲佐町住まいの復興拠点施設」は、震災からの復興や町活性化のシンボルとして甲佐地区災害公営住宅と子育て支援住宅、都市防災公園を一体的に整備しました。

●甲佐地区災害公営住宅

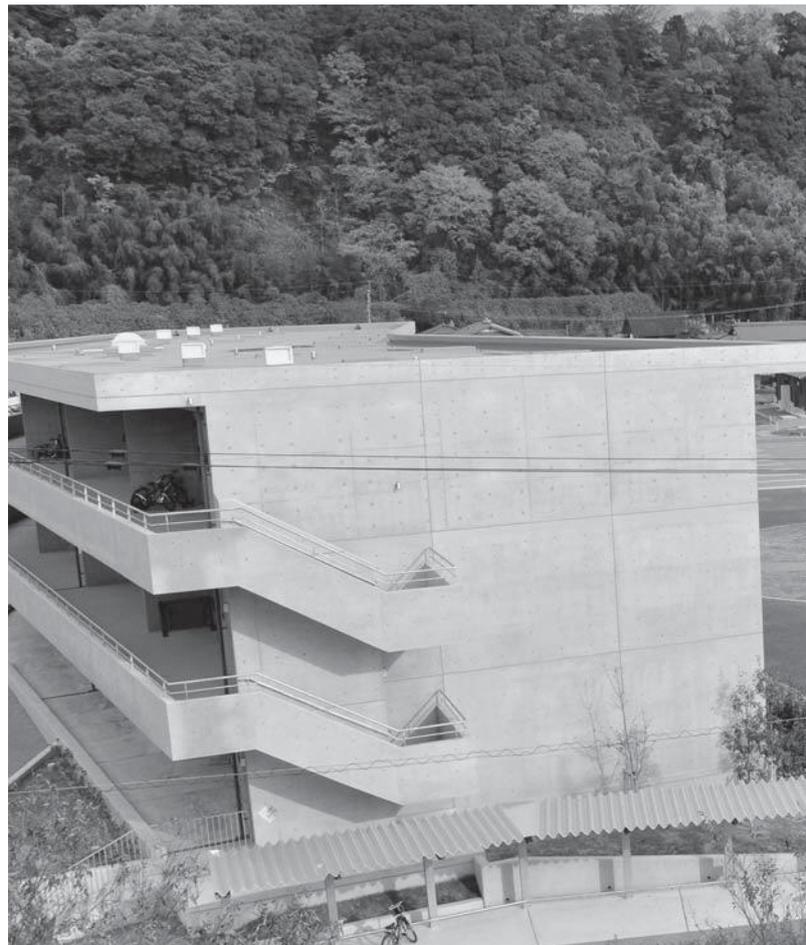
- ・敷地面積：約7,900㎡
- ・木造平屋建 15棟30戸（1戸2LDK（65㎡））
- ・集会所「みんなの家」（木造平屋建て61.92㎡）を設置して入居者や地域の交流の場として活用
- ・平成31年3月完成、平成31年4月入居開始
- ・総事業費：9.39億円

●甲佐町子育て支援住宅

- ・敷地面積：約2,450㎡
- ・鉄筋コンクリート3階建て20戸（1戸2LDK（75㎡））
- ・令和1年8月完成、令和1年9月入居開始
- ・総事業費：7.50億円

●甲佐地区防災公園

- ・面積：約2,400㎡
- ・災害用井戸 1基
- ・防災テント 2基（普段は休憩施設として使用し、災害時は救護室などに利用可能）
- ・総事業費：1.29億円



- 1_完成した甲佐町住まいの復興拠点施設（左から「甲佐町子育て支援住宅」「甲佐地区防災公園」「甲佐地区災害公営住宅」）
- 2_南南東からの卓越風が通り抜ける風の道から「みんなの家」と子育て支援住宅を望む
- 3_建設用地提供者を代表して西住さん（下豊内区）に感謝状を贈呈



「甲佐町住まいの復興拠点施設」は、県が推進する「くまもとアートポリス」事業として整備が進められました。全国から集まった24件の応募のうち、最優秀賞に選ばれた「岡野道子建築設計事務所+ピブルデザイン+ランドスケープ」（東京都）の提案は、南南東の卓越風を活かした風の道や、季節や時間の変化を考慮した自然採光など、甲佐町の環境をデザイン。災害公営住宅だけでなく子育て支援住宅にも各々に土間空間や玄関先の交流スペースが設けられ、コミュニティの繋がりが考慮されていることも高く評価されました。

■「くまもとアートポリス事業」として整備

菅住宅の入居者、土地を提供いただいた地権者など約100人が出席。奥名町長は「本町に暮らす皆様と新たに定住される子育て世代とを優しくつなぐ空間は、復興のみならず創生を見据えた復興への希望となったと思います。将来を担う子育て世代の定住を促し、災害公営住宅入居者との多世代間交流を図るこの施設は、震災からの復興のシンボルとして地域の発展につながる」と期待しています」とあいさつ。

蒲島知事は「県が進めている『創造的復興による将来の地方創生の達成』の第1歩として、甲佐町住まいの復興拠点施設整備ができたことをとてもうれしく思っています」とあいさつされました。